七飯町立七重小学校　学校だより　第７号　　令和７年１０月３１日発行

あかまつ

本校経営・教育活動推進理念　自　分　か　ら
教育活動・授業推進重点目標　ま　っ　す　ぐ

「バケツの水」

校長　五十嵐　義幸

ラジオから流れてきたのは、長い間教壇に立ち、退職した先生の経験談でした。

もう２０年も前、１年生の子どもたちを担任した夏のことです。夏休みが終わり、クラスにかわいらしい女の子が転入してきました。座席は、我がクラスで一番元気で腕白な男の子の隣に決まりました。それから数日間、女の子は、コチコチに緊張しているようで、問いかけにも真っ赤になって俯く（うつむく）様子でした。

そんなある日のことです。４時間目だったと思うのですが、となりの腕白君が授業中にいきなり立ち上がったかと思うと、後ろのバケツを持ってきて、女の子の頭からザバーッと水をかけたのです。それは見事なくらい豪快に、１年生には持てないだろうという量の水を頭の上からです。『なんてことするの！』と叱りつけて、慌てて拭いて…。

あれから２０年、私のところに結婚式の招待状が届きました。あの腕白君とお隣だった女の子の結婚式です。披露宴で語られた成り染めは、そのバケツ事件のことでした。

「小学１年生で転校して、私は緊張して何も言えなくて、おしっこを漏らしてしまったんです。恥ずかしくて、悲しくて、ただ泣いちゃって…。そうしたら、となりの男の子が頭から水をかけて…男の子は先生に叱られたけど、私のお漏らしは誰にも知られなかった。その男の子がこれからも私の隣にいてくれます…。」

やられたなって思いました。叱られた腕白君は、そのことを誰にも言わず、胸にしまい込んだのです。小学１年生の子がですよ。～～～

大人は多くの経験を積んできており、まず考えてから行動するものです。でも、子どもは違います。時として、行動が先に立ってしまうことも多いのです。嬉しいとか悲しいとか悔しいとかその時の気持ちが優先されて、えっと思うようなことが起きることがあります。ですから、失敗をすることも多いのです。「理由はよくわかったよ、そんなことがあったのだね」とわかってあげた上で、「でもそれはよくないこと。どうすべきだったと思う？」と叱り、しっかり考えさせることも日常です。

その時々に、その子にとってのドラマがあることは頭に置いておきたいと思います。「バケツの水」のようなことが、毎日あったら困ってしまいますが、子どもたちの目に映っている世界は、きっと今も昔も変わりないのではないかと思うのです。

修学旅行でもちょっとした出来事がありましたよ。拾った千円札を、落とした子のことをとても心配して届けてくれた子、その後受け取った子のそれはそれは嬉しそうな笑顔。オートロックのホテルで、最初に鍵を閉じ込んだのは〇〇先生。「先生！あと△×円しかないんだけど、どうしたらいいだろう…」と途方に暮れた彼。初めて触ったヒトデに悲鳴が響いた水族館。疲れたんだろうな、見学そっちのけで校長と養護の先生と話し続けた６人組。一番おいしかったもの何？に、リンゴジュースと答えが返ってきた夕食（どれもおいしかったです、本当）。「七重小学校さんには、ぜひ来年も来てほしい」と話す仲居さんの言葉が、みんなのよさを物語っています。

避難所開設訓練を行いました

１０月９日（木）、駒ケ岳の噴火を想定した住民避難訓練の一環として、本校体育館において避難所の開設訓練が行われました。５年生児童が、テントやベッドを組み立てたりしました。

子供たち同士が協力したり補助の大人の方に教えてもらったりしながら進んでテントやベッドを設営しました。また、高機動車の上に乗り、丈夫さを実感しました。参加した児童「テントの中が広くて、ベッドもあって過ごしやすそう」「高機動車の上は想像以上に高かった」等の感想を話していました。

取材に来ていた記者さんから、積極的に自分から進んで取り組む姿や、インタビューの受け応えに「こんなに素晴らしい子供たちと触れ合ったのは、初めてです」とお褒めの言葉をいただきました。

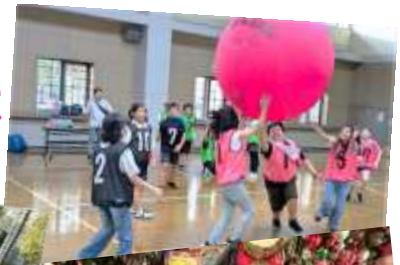
参観にお越しくださりありがとうございます

１０月１８日（土）に土曜参観を行いました。当日は、土曜日ということもあり多くの保護者、ご家族の皆さまにご参観いただきました。子供たちは、いつもより緊張している様子もありましたが、２学期に成長した力を発揮して学習に臨んでいました。保護者の皆さま、多くの方々にご参観いただきありがとうございました。

午後からのCS フェスも児童・保護者合わせて５００名余りのご参加、ありがとうございました。七中生・七高生も運営に協力してくださり、大いに盛り上がりました。

ブースを設置くださった皆様、本当にありがとうございました。

宿泊研修に行ってきました（10/1~2）



職業体験受け入れ～七飯中学校より～（10/23）

「卒業証書授与式の服装」のお願い

卒業証書授与式（卒業式）は、厳粛で清新な中に小学校生活を振り返り、中学校進学への期待を膨らませる大切な行事です。卒業証書を授与されるのですから、小学校の儀式の中では特別なものと言えます。卒業式が近づいてきますと「卒業式の服装には決まりがありますか」という質問を受けることがあります。

本校では、卒業式の服装に決まりはありません。「卒業式にふさわしい服装をお願いします」ということになります。管内の小学校の中には、「中学校の制服で」というところもあります。それも一つの方法として、とてもよいことだと思います。しかしながら、本年度の卒業式に向けて、すでにご用意くださっているご家庭もあることでしょうし、これまで何もお伝えしておりませんので、服装については前年度同様に行って参りたいと思います。

現５年生につきましては、２月の参観・懇談時から話題としますので、保護者皆様のお考えもお寄せください。校長の考えを聞きましたら、「『学校で決めてください』ということであれば、『中学校の制服にしましょう』とすると思います。」と話しておりました。ただし、制服といっても、一つに揃うことでもなく、様々な配慮は必要ともありました。大切な式ですので、子どもたち全員が胸を張って卒業していけるよう、お支えいただきたいと願っています。